

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

学校名		唐津市立馬渡小中学校	
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の共通理解のもと、授業公開を行い、思考力・判断力・表現力を育成する校内研究を推進できた。次年度は「めあて」と「まとめ」に関連させ、自分なりの表現を行う授業づくりの研究を深化させる。 ・道徳科を中心に心の教育を推進できた。また、子どもが相談しやすい雰囲気づくり・体制づくりも実践できた。次年度も自他を尊重する態度・実践力を養っていく。 ・次年度も子どもたちが生涯にわたって健康を維持するための食習慣・生活習慣づくりの取組を継続していく。 ・学校行事の目的を達成し、また、ICTを活用しながら授業の質を低下させない働き方改革を推進することができた。次年度も手段の改善に取り 		
2 学校教育目標	良さを見つけ、良さを伸ばす ～自分を愛し、周りの人を愛し、島を愛する児童生徒に～		
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①学力の向上) 主体的・対話的で深い学びの推進 ②心の教育) 人権・同和教育や道徳教育を柱にしたUD教育の充実(児童生徒対応力の向上) ③健康・体づくり) 生活実態調査をもとにした家庭と連絡を取り保護者との連携 ④業務改善) 業務改善、きめ細かな指導の充実 ⑤小中連携) 小中一貫教育による開発的生徒指導の実践(出番一役割一承認) 		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・全教員が、研究主題を意識した授業研究を年1回行う。また、授業研究会にも年に3回以上参加する。
	○書く活動の充実	○条件に合わせて自分の考えを伝えることができたと答える児童生徒の割合80%以上	中学校では、根拠を明確にして自分の考えを説明する活動を仕組む。小学校では、まとめやふり返りで、条件に合わせて考えたり書いたりする活動に取り組ませる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒75%以上 ●担任が、道徳の授業を年1回以上保護者に公開する。	・道徳の授業を中心に心の教育を実践する。 ・「唐津市教育の日」に、全学年『ふれあい道徳』を行い、保護者や地域の参加型の授業を実施する。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員80%以上。 ●生徒会を中心として、人権活動を年1回以上行う。	・職員会議で情報交換を行う。 ・いじめの発覚または疑われる事案発生直後、いじめ対策委員会を開催する。 ・人権週間の設定と人権集会を開催する。
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて主体的に取り組もうとするための教育活動	○学校生活アンケートの「将来の夢や目標を持っている」の項目について肯定的な回答をした児童(小6)生徒(中3)75%以上	・夢や目標について目標の樹やキャリアパスポートの活用、マナー検定を通し自ら考えさせる時間を設ける。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○生活アンケートの「早寝・早起き・朝ご飯」の項目でできていると回答した児童生徒90%以上 ○1日30分以上体を動かす児童生徒90%	・起床、就寝、食事等、規則正しい生活習慣の定着に向け呼びかけを継続する。 ・週に1回小中合同で遊ぶ日、小学校においては児童全員で遊ぶ日を設定する。
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上 ○児童生徒の朝食摂取率100%を継続。	・朝食摂取調査を実施し、家庭と連携して指導する。 ・食に関する指導(栄養指導)を食育月間や給食週間、学活等を通し実施する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・校務データの整理・活用及び柔軟に校務を割り振る。 ・協働による業務を推進する。 ・定時退勤日、部活動休養日を確実に実施する。
	○タブレットPCを活用した教育の個別最適化の推進	○意識調査において、タブレットPCを授業や評価に活用していると回答する教員80%以上	・タブレットPC活用に関する職員研修を実施する。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○連携(小中・地域)	○小中学校職員の協働による教育実践	○中学校教員による授業や学活の時間を好意的に受け止める児童の割合が80%以上。	・中学校教員による乗り入れ授業と小学校副担任制の充実を図る。
	○島民参加を促進する教育活動の実践	○学校行事や授業への島民の参観や参加回数が年に30回以上。	・学校だよりや、口コミで行事前に告知を行い、授業参観に来てもらう。 ・島民に、ゲストティーチャーや授業の参加者としての来校を促す。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育